保ふ
08

アウトドアを専攻する学生を対象とした森林環境教育プログラムの実践と効果

北海道教育大学岩見沢校　山田　亮　　網走西部森林管理署　佐野　由輝
北海道森林管理局　平田　美紗子

背景･目的

北海道教育大学岩見沢校スポーツ文化専攻「アウトドア・ライフコース」では、野外活動、野外教育、環境教育をテーマに、体験的な学びを通して自然と共生する暮らしのあり方を追究しています。森林は、実習や研究のフィールドの一つであることから、北海道森林管理局の職員と協働し、大学2年生を対象に自然観察の知識や技能を体験的に学びながら、さまざまな物事の本質を捉える力を養うことを目的とした「森林環境教育プログラム」を実施しました。本発表では、そのプログラムの内容を紹介するとともに、その教育効果を検証したデータから、森林環境教育の有効性を示します。

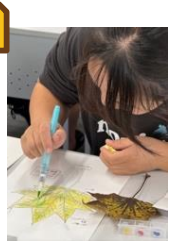
プログラム内容

日程:2025年9月27日～28日　場所:北海道教育大学岩見沢校および利根別自然休養林

1日目	2日目
午後 ・講義「自然の保護（生物多様性とは）」 ・講義「自然の観察（目的と手法）」 ・実習「森の見方、自然観察の実際」	午前 ・講義「ネイチャージャーナルとは」 ・実習「ネイチャージャーナルの実践」 午後 ・講義「ネイチュア・フィーリングとは」 ・実習「ネイチュア・フィーリングの実践」 ・実習「リーフアートの実践」

ネイチャージャーナル

自然観察スケッチを通して自然への興味関心を高め、「物事を観て発見する力」を養う事を目的とした学習手法



ネイチュア・フィーリング

五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）を活用して自然を「感じる」ことを重視した自然観察の手法・活動

教育効果の検証

プログラムに参加した大学2年生11名に対して、プログラム実施前後に心理尺度からなるアンケート調査を実施しました。項目の内容は、自然との共生感尺度（9項目、山田ら2020）、大学生のレジリエンス尺度（21項目、金原・袰岩2014）としました。

回答データを統計的に分析した結果、尺度得点の平均値が事前から事後にかけて上昇し、自然との共生感とレジリエンスが有意に向上しました。また、レジリエンスを構成する4因子についても有意に向上しました。

結果から、今回実施した森林環境教育プログラムは、参加者の自然に対する感性や親和性を高め、自然に対する畏敬の念を抱くとともに、心理的回復力や物事に対してうまく適応する能力を身につけることにつながることが明らかとなりました。

尺度得点の平均値と統計値

(N=11)	事前（M）	事後（M）	t値
自然との共生感	43.91	48.27	3.66 **
レジリエンス	90.55	101.45	3.58 **
遂行力	38.27	42.55	2.81 *
ソーシャルサポート	23.27	25.18	2.49 *
自己不信（逆転項目）	10.73	13.82	3.56 **
楽観性	18.27	19.91	2.21 *

**p<0.01　*p<0.05

今後の展開

プログラムを受講した学生のふりかえりレポートには、森や樹木をさまざまな角度からじっくり観ることの重要性を実感し、今後のアウトドア・ライフコースの実習や研究にも活かしていきたいとの記述が多くみられました。現在、林野庁では「森林サービス産業」を推進しているところであり、アウトドアを専攻する学生が、フィールドの一つである森林に関心を持つことは大変意義があると考えます。今後も、北海道教育大学と北海道森林管理局との連携を強化し、森林環境教育の実践を積み重ね、より効果的なプログラムを確立していきたいと考えます。